

レポーター：学芸員の高山さんです。よろしくお願いします。

学芸員：よろしくお願いします。

レポーター：ずいぶん変わった形の兜ですね。

学芸員：そうですね。あの源平合戦の一の谷というところのその崖を表した形をしているという風にいられています。

レポーター：んー。このそりが崖を。

学芸員：崖を表しているという風にいられていて、これはまた杉の板をこう曲げて、で、それで銀箔をこう付けてという風にいられていますね。

レポーター：えー、杉の木で作られているんですね。こう、なんか見ると金属を叩いたような。

学芸員：木の板ですね、完全に。

レポーター：そうですね。重たくてかぶれないですね、金属で作られていたら。

学芸員：比較的大きさの割にはまあ重さはそんなにないという感じですね。

レポーター：これは誰が、実際かぶっていた兜なんですか。

学芸員：これはですね、黒田長政という戦国武将がいるかとは思いますが、福岡藩の初代藩主ですね。彼が関ヶ原合戦以降かぶっていたという風にいられている兜ですね。

レポーター：へえー、私、長政の兜というともう一つの水牛の兜とのイメージがすごく強いんですけども。

学芸員：若い時は大水牛の兜をかぶっていて、この兜は朝鮮出兵の時にあの一福島正則という戦国武将と長政がちょっと喧嘩してしまって、不仲になると。後日仲直りをする時にそれぞれかぶっていた兜のスペアを作って交換をしたという風にいられています。仲直りのしるしにですね。で、えー、この兜自体はもともとは福島正則が愛用していた兜の形というものになりますね。

レポーター：えー、そのまま自分の兜はもうかぶらずに、こちらの兜をかぶるようになっていったんですね。

学芸員：お互い仲直りをしまして交換したので、もらった方だけ使っていたということですね。

レポーター：へー、友情を大事にしていたという兜になるんでしょうね。きっと。

学芸員：その2人の友情がわかるという兜ですね。

レポーター：この甲冑にも何か特徴があるんですか。

学芸員：5つのパーツでできていて、五枚銅と呼ばれるものですね。こう金色の縁取りがあって覆輪といってですね、すごく豪華な造りになっていて、いかにもこう戦国武将の、まあ、おしゃれとかですね、そういったところが見えるような甲冑になっているかと思えます。まあ、ちょっと渋いですけどね。

レポーター：そうですね、色はとても落ち着いた色みですよ。

学芸員：はい。

レポーター：じゃあ結構、長政はおしゃれな方、だった。

学芸員：そうだと思いますね。戦国武将はだいたいこういろんな変わり兜をかぶっていますけど、もともと使っていた大水牛の兜をすごく目立つかっこいい形にしていますし、この一の谷の兜は今はこういう色をしていますけども、多分作った当時はもっと銀色がピカッと光っているようなものだったと思うので、遠くから見るとすごく映えたんじゃないかという風に思います。

レポーター：そうなんですか。この甲冑兜を見る時のポイントってあるんですか。

学芸員：戦国武将の兜となると、いろんな形をしているものがあるって、その形、なぜそのような形をしているかという、それぞれにいろんな意味が多分あると思うんですね、例えば、この一の谷の兜だと一の谷の合戦で源義経が大勝利を収めたという、そういったいわれを縁起を担ぐじゃないですけど、それでこういった一の谷の形を模した兜をかぶって、自分もその義経の武功にあずかろうという、そういった意味があるんだと思います。なので、いろんな形をしてるんだけど、それには意味があるっていうのがあるので、是非いろいろ見てもらって、どういった意味があるんだろうと見てもらったら面白いと思います。

レポーター：なるほど、デザインだけでなく、その裏の意味もたどっていくと、また面白味も変わってきますね。

学芸員：はい。

レポーター：はい、わかりました。ありがとうございました。

学芸員：ありがとうございます。